

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570100863		
法人名	医療法人社団洛和会		
事業所名	洛和グループホーム坂本		
所在地	大津市下阪本6丁目19-1		
自己評価作成日	平成25年12月8日	評価結果市町村受理日	平成26年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/25/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2570100863-00&PrefCd=25&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援に重点を置き利用者の生き生きとしたその人らしい暮らしを大切にしている。一人ひとりのニーズをしっかり把握し、ケアプランに反映させることで、実際の暮らしの場面で実践につなげている。
その人らしい生活を支援する為に、その人を支えている人たち(家族・主治医・訪問看護師・訪問歯科など)との連絡を密にとり、必要な情報の共有を行い、連携を図っている。
終末期に近づいても今まで通りの暮らしが継続できるようにグループホームでできる限りのターミナルケアに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは利用者に丁寧接する中で利用者を知り、利用者がこれまでに培ってきたことを大切にその人らしく暮らせるよう支援に取り組んでいます。介護計画の見直しの際には全職員が利用者の気持ちになって作成した資料を集約し、利用者の思いを深く知りホームでの暮らしに活かしています。また、利用者が不安にならないよう細やかな声掛けを行い信頼関係を築く中で入居後間もない利用者が早期に落ち着かれたことがあり、職員の自信ややり甲斐にも繋がっています。また医療との連携を図りながら意向に沿った看取りの支援にも取り組んでいます。職員間で方針を共有し、今後予想される事などの話し合いを重ねながら利用者の穏やかに暮らすことができ家族に満足してもらえる支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を構築し、実践に繋がられるようにしています。 「その人らしくを大切に笑顔でやさしく寄り添うケアを目指します」	法人理念を基に作られた独自の理念を大切にしています。ミーティングや会議の際にはその人らしさを尊重し笑顔で寄り添えているかなど、理念を原点として振り返りや確認を行い、理念にそっているかを考えながら日々の支援に活かしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と一緒に近所の人へ回覧板を回しに行ったり、ボランティア活動を受け入れたりして、交流をしています。	近隣のコンビニへ買い物に行った際や回覧板を届けた際には挨拶を交わしています。地域の店から米を購入したり、利用者の散髪は近隣の理髪店に来てもらうなど地域交流を意識した取り組みを行っています。祭りの神輿がホーム前を通る情報をお願いしたり、歌の会や紙芝居などのボランティアの来訪もあり交流しています。	管理者交代の挨拶を兼ね、近隣の小・中学校などに挨拶に出向き、子供たちとの交流のきっかけ作りをされてはいいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人向けに、認知症サポーター養成講座を年に一回開催しています。また、認知症相談窓口も設けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、自治会連合会長、自治会長、民生委員、社会福祉協議会会長、地域包括センター職員等の参加があり、2ヶ月に一度開催しています。利用者の状況、行事の報告、防災についてなど、意見交換をしております、運営に生かしています。	会議は家族や自治連合会長、社会福祉協議会々長、民生委員などの参加を得て隔月に開催しています。災害時の安全な避難場所について話し合ったり、家族から掃除について出された意見では窓ガラスやエアコンなど普段は行わない場所にも力を入れて大掃除を行うなど改善しています。不参加の家族には会議録を送付し内容を報告しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際、地域包括センターの職員と情報交換、意見交換等を行っています。	運営推進会議には市の委託を受けた地域包括支援センター職員の参加がありホームの実情を知ってもらう機会になっています。更新時の資料請求や分からない事等の相談は法人を通して行い連携できるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新任時の研修や洛和会介護部門全体の研修などで、必ず身体拘束について学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	毎年行われる法人の身体拘束に関する研修は受講した職員によりミーティングの中で伝達し周知しています。言葉による行動制止について話し合ったり、センサーを設置している利用者についてはリスクや必要性などを確認し、家族の了解の下外す方向で話し合っています。散歩など外に出たい方には職員が付き添っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新任時の研修や洛和会介護部門全体の研修などで、必ず虐待の防止について学び、防止に努めています。		

洛和グループホーム坂本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受けてきた職員が他職員に伝達研修を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約解除時には十分な説明を行い、疑問や不安の解消に努め、信頼関係を築けるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は日常的な関わりの中で想いを聞き、家族は入居時のアンケートや年に一度の満足度アンケートを実施しています。また、面会時や運営推進会議で意見の言いやすい雰囲気を作り、希望や要望に応えられるようしています。	家族は面会が多く面会の際に声をかけて意見や要望がないかを聞いたり、運営推進会議の中や法人によるアンケート調査などで意見を聞いています。意見を受けて大掃除の実施や環境整備、季節に合った衣類の着用に配慮するなど速やかな改善に努めています。また個別の意見は介護計画に反映しています。	
0	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回のミーティング時に意見を出し合ったり、毎朝夕の申し送り時に意見交換をしたりしています。また、必要なときは都度面談を行っています。	職員は日々の申し送りや毎月のミーティングで担当した行事などについて活発に意見や提案を出しています。また職員アンケートの実施や年2回行われる個人面談の他、管理者は職員の様子を見ながら個別に話を聞いたり相談に乗っています。物品購入など意見によっては法人に上げられ、必要性を検討した上で実現できるよう話し合われるなど、できるだけ意見を取り入れ運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「自己評価」「力量調査」を年2回行っており、管理者と職員一対一で、面談を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスの運用、力量調査を行い、その職員にあった研修を受けられるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淡海グループホーム協議会に参加しており、会合や研修に出席しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話をしっかり聞き、不安や困っていることを解消し、安心して生活できるよう努めています。また、信頼関係をしっかり持てるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも、密に連絡を取り合い、信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と話し合う中で、できるサービスの提示を行い、生き生きとした生活を送れるような選択肢を増やせるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できないと決め付けず、本人の力を引き出すような関わりを持ち、暮らしを共にする同士の関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加してもらうことも含め、日常生活をどのように過ごしておられるかを見ていただき、家族の想いを聞きながら本人を支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら家に帰られる方もおられる一方、外出が少ない方もいます。家族、知人などに来訪してもらいやすい環境作り、雰囲気作りをしています。	知人や親戚の来訪があった際は職員が挨拶しゆっくりできる場所を提供し、次回の訪問に繋がるよう配慮しています。毎週自宅に戻り過ごす方には外出がスムーズにできるよう体調を整えたり、職員が付き添い孫の結婚式に参加した方もいます。利用者の馴染みの要望を聞きながら支援に繋げています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さま同士、気の合う合わないはありません。日々、職員がさりげなく雰囲気作りをして、いい関係作りができるように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も信頼関係に基づいたフォローを行っています。継続してボランティアなどでグループホームに関わって下さる家族様もいらっしゃいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、アセスメントを行っています。職員が支援していく中で感じた事なども話し合い、本人の想いに沿ったケアの提供をしています。	入居時に本人や家族から暮らし方の希望や生活歴を聞いたり、指定の用紙を用いて家族に生活の様子や習慣などの情報を記入してもらおうと共に入居前の利用していた事業所等からも情報をもらい思いの把握に繋げています。職員は日々のケアで気づいた言動を記録に記載して共有し、計画の見直しの際は全職員が利用者の気持ちになって作成した資料を集約し思いを汲みとっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、今までの生活歴をできるだけ詳しくお話してもらい、センター方式に落とし込み、情報の共有をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを密に取り、ハウレンソウが職員全員できるような環境作りや介護日誌、申し送りノートを活用しています。利用者さまの情報を職員全員で共有できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の想いを尊重し、その想いを言いやすいように日ごろからの関係作りをしています。その想いを聞いたうえでカンファレンスを行い、計画作成をしています。	利用者の思いや家族の意向、身体状況などを加味し介護計画を作成しています。入居当初は短い期間で計画を見直し、その後は6ヵ月毎にモニタリング及び評価し1年毎に見直しています。事前に聞いた家族の意向や全職員で利用者の思いや現状について意見を出し合い介護計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や、申し送りノートの活用はもちろん、職員同士、利用者さまについて気付いたことがあればすぐに報告できるようにしています。それをカンファレンスに反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さまになにかあれば、些細なことでも家族に相談しながら、柔軟に対応しています。		

洛和グループホーム坂本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	たくさんのボランティアさんに来て頂くことで、外部との関係作りをしたり、利用者さまにとって刺激になればと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と密に連携を取り、適切な医療を受けられるように支援しています。毎日利用者の体調について主治医に報告しています。	かかりつけ医は選ぶことができますが、内科については全利用者が月に1度の往診と随時の往診が受けられる協力医に変更しています。協力医や訪問看護は共に24時間連絡が取れ、急な体調変化などは指示を受けて対応しています。専門医への受診は家族が対応し、近隣の専門医へは職員が付き添っています。また、必要な方は歯科や訪問マッサージを受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護に合わせ、利用者さんの情報をしっかり伝えられるように職員間で情報を共有しています。また必要に応じて、受診や看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換し、お見舞いなどにも行き病院関係者との関係作りに努めています。また、相談員など専門の他部署との連携をしっかり取るようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、主治医と連絡を密に取り、本人や家族の気持ちを大切にしながら今後の方針を決めています。職員の終末期の対応について、勉強会や意見交換を行い質の高いケアを提供できるように心がけています。	入居時に終末期の支援についての方針や支援できる内容について説明しています。これまでも看取りの支援の経験があり医師や訪問看護師を交えて家族と何度も話し合ったり、職員間では今後予想される事などの話し合いを重ね取り組んでいます。最期の時は職員と共に家族や管理者も付き添うなど、関係者で方針を共有し家族に満足してもらえるよう支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修にて事故発生時の初期対応などを学んでいます。また、マニュアルを設定し、スタッフミーティングなどで確認するようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に一度、様々な災害を想定し、訓練を行っています。また、年に2回消防署指導の下、消防訓練、避難訓練を行っています。運営推進会議にて結果や課題について検討しています。	隔月に消防訓練を行っておりその内の年に2回は消防署の指導を受け昼夜を想定し避難誘導や初期消火、通報などの訓練を行っています。自主訓練の際はその時々でテーマを決め、地域の避難場所への避難が可能ななどシュミレーションを行い明確になった課題について検討しています。地域防災訓練が行われる際には参加しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーの尊重はその人の尊厳に関わるものという認識を持って、人格を尊重できるような言葉かけや対応を心掛けています。	入職時研修や法人で行われるマナー研修を受講し、不参加の職員に伝達研修を行っています。個々に合わせて利用者が呼ばれたい呼び方やかかってもらい易い呼び方を行い、排泄時の声かけは声の大きさなど周りに配慮しています。日々の支援の中で新人職員にも伝えながら不適切な対応がないよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択ができるような声掛けを行い、本人の想いを大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者主体であることを常に認識するよう心がけ、職員の都合を押し付けないようにし、一人ひとりのペースやその日の気分、希望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と相談して決めてもらったり、本人が決められない場合でも選択肢を提示したりして、その日の服を決め、身だしなみを整えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのできることに合わせて、食事の準備や後片付けを職員と一緒にしています。	注文した食材が届き、日々の献立は食材を見て利用者に聞きながら立てています。職員と一緒に台所に立ち調理をする方やテーブル拭きやお茶入れなど、できる事に携わってもらっています。外出時には弁当を取ったり、家族を誘ってホテルでの食事会などの企画を立ててもらっています。職員も食卓に着き会話を楽しみながら、団らんの時となるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状況に合わせて、食事量や内容を変えたり(体調不良の方はお粥にするなど)、飲水量のチェックをしたりして、栄養・水分を確保できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	チェックシートを活用し、一人ひとりに合わせた口腔ケアをしています。 必要な方には訪問歯科の協力を得て歯科受診もしています。		

洛和グループホーム坂本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮しながら、本人にあった排泄の用具を使用し、排泄のパターンを把握することで、トイレでの排泄を維持できるようにしています。	排泄記録を参考に、個々に合わせて様子を見ながらトイレで排泄できるよう支援しています。支援の際には利用者の自尊心を大切に傷つける事がないよう留意し、できるだけ布の下着で過ごせるよう努めています。紙パンツから布の下着に変更になった方は蒸れや不快感が改善しています。利用者が失敗なく快適に過ごせるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり摂れるように好みの飲み物を提供したり、毎朝ラジオ体操をして、予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や本人の希望により、入浴を行っています。	入浴はその日の利用者の体調や状況に合わせて声掛けを行い、希望にそって順番に支援しています。概ね週2～3回を目安に日中に入ってもらっていますが、夜間は9時頃まで職員体制があり、希望があれば夜間に入ってもらうことが可能です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の体調をしっかり把握出来るように努め、日中もしんどくないよう適宜休息がとれるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・訪問看護師・薬局の薬剤師とも連絡を密に取り、症状の変化について報告、相談をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽を聴く、絵を描くなど個人の趣味や楽しみを大切に、また、個人の役割などをもってもらい生き生きとした生活につながるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	エレベーターがないため、車いすを使用している利用者の外出が頻繁にはできない現状があります。歩ける人は日常的に近所のコンビニや薬局まで散歩がてらでかけています。	近隣への散歩や買い物に出かけたり、季節の桜や紅葉狩りなどに出かけています。外出行事の際には家族にも声をかけ一緒に参加してもらっています。今年度は外出行事に力を入れて取り組んでおり、車いすを利用し日常的な外出が困難な方にも出かける機会が持てるよう外出行事を企画しています。	

洛和グループホーム坂本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる人は買い物時、支払いをしてもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より依頼があった際は、適宜電話などで連絡をとってもらえる様支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた飾りつけや、利用者の作品の掲示など、温かみのある空間作りに配慮しています。	多くの絵画が飾られた共用空間は正月飾りなど季節に応じた飾り付けを行ったり、利用者の書初めなどの作品が飾られています。炬燵が置かれた量の部屋では昼寝をしたり、広い廊下には椅子やベンチを置き利用者が居場所を選べるよう工夫しています。また見晴らしの良い空きスペースもあり、外の景色を眺めたり、気分転換に利用するなど快適に過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になりたいときは各居室や多目的室など自由に行き来できる環境にあり、利用者同士も居室やリビング・多目的室など思い思いの場所で過ごしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や本人が長年使用した馴染みのもの、思い入れのある作品などを置くことにより本人が居心地よく過ごせる工夫をしています。	家具等はできるだけ馴染みの物を揃えてもらうよう伝え、ベットを使用するか布団を敷いて休むかは習慣や好み合わせて決めてもらっています。利用者は家族の写真や趣味の絵、折り紙などの作品を飾ったり、自室で読書をする方や好きな植物を育てる方もおり、落ち着いて過ごせるよう配慮しています。毎日掃除を行い、温湿度計を置いて乾燥にも気を配り、気持ち良く過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リスクマネジメントの観点からも、できることやわかることを把握し、自立支援に繋げています。		